

チエジユ訪問世界宗教者ら「韓国政府は海軍基地中断要求」

〔チエジユの声、2011・12・7〕

チエジユを訪ねた世界宗教者チエジユ訪問団がチエジユ海軍基地中断を要求した。世界宗教者連帯訪問団は六日午後4時40分、チエジユ道議会<道民の部屋>で記者会見を開き、海軍基地建設に対して宗教界の立場を表明した。記者会見にはボン・ヤグノスカナダ連合教会アジア局長、シャオリン・チュアアメリカ連合教会アジア局長、ピーター・エンジアメリカ聖公会アジア局長、野口よういち日本庭野平和財団理事長、イ・シンジエン台湾長老教会青年委員会などが参加した。

国内からは曹溪宗実践仏教僧伽会実行委員長ジョンホ和尚、円仏教人権委員会総務ジョン・インドク教務、カトリック平和3000事務総長パク・チャンイル神父、基督長老教会部長シン・スンミン牧師など国内外21人の宗教者が同席した。訪問団はチエジユ海軍基地が美しいチエジユの自然を破壊し、東アジアと全世界の平和にも悪影響を及ぼすものと判断している。

ボン・ヤグノスカナダ連合教会アジア局長は「すべての生命を大切にすることが宗教界の役割」であり、「われわれ宗教者は皆同じ気持ちでチエジユに来た」と語った。さらに、「すべての人が尊厳さのうちに、自然を守らなくてはならない。仏教やキリスト教などあらゆる宗教は生を破壊するすべての力や権力に抵抗していく」と強調した。

カンジョン村訪問の感想についても話した。ボン局長は「海軍基地建設は、共同体と自然に深刻な被害を及ぼし、自分たちの生活が破壊されるだろうとの話をたくさん聞いた」と説明した。また「カンジョンに住んでいる村民たちは自分たちの村で起きている問題について、決定できる権利を持っている。我々の訪問は信仰を表す象徴的な意味がある。カンジョン村民に強く連帯の意を表する」と述べた。

東アジア軍事紛争に対する憂慮の声も上がった。ピーターアメリカ聖公会アジア局長は「最近、アメリカがオーストラリアダーウィンに軍事基地を建設しようとしている問題をめぐり、米中間に葛藤が深まっている。海軍基地が建設されると、問題がさらに大きくなる」と主張した。さらに、「銃は銃を呼び、ミサイルはミサイルを呼ぶ悪循環をなぜ、美しい島チエジユで繰り返さなければならないのか。美しい自然を軍事目的で破壊するというのは、どんな名分であれ、正当化され得ない」と強調した。

訪問団は続いて、「韓国政府は今すぐにも軍事基地建設を中断し、チエジユを平和の島になるよう努力しなければならない。宗教者たちは平和の島チエジユを守るために、韓国の皆さんと連帯する」と語った。

世界宗教者チエジユ訪問団は七日までカンジョン村とチエジユ四・三(サー・サム)平和公園などを訪ね、チエジユの平和のための意見をまとめる。

世界宗教者たちと懇談したムン・デリム議長、「政府、チエジユド(済州道)双方共に過ち」

〔チエジユの声、2011・12・7〕

世界宗教者チエジユ訪問団に会ったムン・デリムチエジユ道議会議長は、チエジユ海軍基地建設問題は中央政府とチエジユド双方の過ちだと表明した。ムン議長は六日、午後四時チエジユ道議会小会議室で、韓国キリスト教協議会主催によりチエジユを訪問中の世界宗教者たちとチエジユ平和をテーマに懇談会を開いた。懇談会にはボン・ヤグノスカナダ連合教会アジア局長、シャオリン・チュアアメリカ連合教会アジア局長、野口よういち日本庭野平和財団理事長、イ・シンジエン台湾長老教会青年委員会などが参加した。国内からは曹溪宗実践仏教僧伽会実行委員長ジョンホ和尚、円仏教人権委員会総務ジョン・インドク教務、カトリック平和3000事務総長パク・チャンイル神父、基督長老教会

部長シン・スンミン牧師など国内外21人の宗教者が同席した。

発言に立ったムン・デリム議長は海軍基地建設事業に対する手続き問題を指摘し、政府の一方的な事業推進に対する不満を露わにした。ムン議長は「三八度線と最も遠く離れた南端に、それもカンジョンに海軍基地がなぜ建設されなければならないのか。政府はチェジュになぜ海軍基地が必要なのかについての説明が錯綜している」と指摘した。続いて、「法的な手続きを政府が守らなかった。カンジョン住民の理解と同意を求めるために、正常な手続きを何ら取らなかった。宗教指導者の皆さんがカンジョンで見て、感じたことを全世界に広げて欲しい」と注文した。海軍基地推進過程での手続き上の問題を尋ねたボン・ヤグノスカナダ連合教会アジア局長の質問には、「チェジュドと政府は双方共に誤り」だと見解を語った。また、ムン議長は「カンジョン住民が絶対保存無効確認訴訟を起こしたが、裁判所は本案審査を回避した。これは政治的な判断を下したものとみられる」と述べた。また、「先の第八代・議会の際、絶対保全変更同意案を通過させた。当時の多数党によって一方的に処理したものであり、第九代・議会は同意案に対して、否決議決を強行した」と説明した。ムン議長はまた、「絶対保全変更の要件が満たされていないにも関わらず、これを議会に提出したチェジュドと中央政府は双方共に誤っており、政府は今も海軍基地事業をこり押ししている」と指摘した。

懇談会後、ボン・ヤグノスカナダ連合教会アジア局長は、ムン・デリム議長から世界の宗教者たちの意見を集めた声明書を伝達した。

世界宗教者訪問団 海軍基地反対に賛同
道議会議長訪問も

(チェジュ道民日報、12月7日)

世界各地から参集した宗教者たちがチェジュでカンジョン海軍基地工事中断を要求し、反対運動への賛同することを明らかにした。

チェジュカンジョンの軍事基地に反対する世界宗教者連帯訪問者たちは、六日午後、チェジュ道議会道民の部屋で記者会見を開き、「カンジョン軍事基地は中断されなければならない」と語った。

この日、記者会見にはボン・ヤグノスカナダ連合教会アジア局長をはじめ、シャオリン・チュアメリカ連合教会アジア局長、ピーター・エンジアメリカ聖公会アジア局長、野口よういち庭野平和財団理事長、イ・シンジエン台湾長老教会青年委員会など21人が参加した。

一行は「プロテスタント、カトリック、仏教、円仏教などが参集し、香港、台湾、アメリカ、日本、カナダなど世界各地からやって来た。我々がここに集まった理由はただ一つ、すべての人々が尊厳のうちに自然を守って生きようという思いから、生を破壊する権力に抵抗するためだ」と説明した。

彼らは、「チェジュカンジョン村に海軍基地が建設されるというニュースに接して、大いに憂慮してきた。チェジュ訪問の際、多くの人々との出会いを通して、海軍基地が村の共同体と自然に深刻な被害を及ぼすという話を聞いた。また、彼ら自身の生活が荒れ果てたものになるという心配と不安の姿も印象に残っている」と語った。

彼らは、特に「カンジョンに住んでいる村民たちは自分たちの村で起きている問題について、決定

できる権利を持っている。韓国政府は今すぐにも村民たちの要求を受け入れ、海軍基地建設を中断、チェジユを平和の島になるよう努力しなければならない。宗教者たちは平和の島チェジユを守るために、韓国の皆様と連帯したい」と声を上げた。一方、彼らはこの日の記者会見に先立って、チェジユ道議会ムン・ドリム議長と約30分あまり面談した。

彼らはムン議長に会い、海軍基地承認過程手続きと道議会決定、違法行為の主体が政府なのか地方政府なのか、絶対保全地域を解除、破壊することに伴う国連等の国際機構の支援がないのか、等について尋ねた。ムン議長は一つずつ質問に詳細に答えた。「海軍基地建設承認の過程で村民の理解と同意を求めるために正常な手続きを一切履行しなかった。宗教指導者たちがカンジョンで見て、聞いたことを全世界に広めて欲しい」と注文した。ムン議長は「明らかな落度のある絶対保全地域変更同意案を通過させた第8代・議会の過ちも大きい。当時多数党によって一括処理したものだとして第9代・議会に入ってから同意案に落度を認め、取り消しの議決を強行した」と説明した。